

第2回 新校舎基本構想制定委員会資料

I 【特色ある学校づくりにつながる方針】について

- 基本方針
- (1) 「多様性」をキーワードに、樹(き)の「ぬくもり」を生かしながら、人や地域に優しい学校づくりを目指す。

・ 市内全域から多様な児童生徒の受け入れを可能とする特別転入学制度を導入し、萱瀬小中学校の活性化を図る。

・ 全市的な教育支援センター（SSR）の充実を図る。

(2) これまでの取組である「小中連携」「異学年交流」「地域とともに」のさらなる強化を図る。

・ 義務教育9年間を見据えた一貫性のある教育活動を実施する。

・ 学校行事はもとより、教科指導の乗り入れ授業や日常の活動での異学年交流を図る。

・ 教科や総合的な学習での地域素材や人材の活用、地域貢献活動に取り組むなど「地域とともに」ある学校づくりを推進する。

※ アンケートでお寄せいただいたご意見

①	施設設備	伝統を大切にしながら、新たな時代に対応した教育環境
②	教育活動	他校とのクラス単位での交流
③	検討方法	「基本方針(バックグラウンド)」と「施設設備の基本構想」との混乱を避ける。
④	学校形態	義務教育学校ではなく、小中連携校としての設置
⑤	学校形態	SSRの試みは、これからの時代に必要。
⑥	情報発信	運用プロセスを可視化し、地域や保護者の協力を得られるように

※ 参考

- 萱瀬小中の伝統とは
- ・ 校種や学年を越えた交流、家庭的な雰囲気

・ きまりを守り協力する姿勢

・ 豊かな自然を素材とする学習活動
- 新たな時代に対応した教育環境の視点とは
- ・ 多様性の尊重（性差、障害、特性、個に応じた学習方法）

・ 防災、感染症対策

・ 情報デジタル化
- 基本方針と基本構想の関係
- ・ 「基本方針（こんな学校にしたい）」が達成しやすいように新校舎の「基本構想（こんな校舎にしたい）」を検討する。
- 地域や保護者の協力を得るには
- ・ 情報発信

2 【こんな学校にしたい(全体を貫く基本的な考え方・コンセプト)】について

コンセプト(キャッチフレーズ)		意味や考え、願い等
例 1	安らぎとぬくもりの学び舎	・安全に安心して過ごせる場所に ・友だちや先生、地域の人とふれあい、心のぬくもりを感じる学校に
例 2	～山・川・人～ かやぜの杜	・杜(もり)の語源は、神社の周りの木立で自然や神様に守られていること ・自然や地域に見守られて健やかに成長してほしい。
①	生きる力を育てる学校	・何事にも安心して挑戦でき、失敗も未来に生かす経験として学べる環境 ・違いを認め、人とのふれあいを楽しめる ・自然とふれあい社会性を学び生きる力を育てる
②	認め合い 心が深呼吸できる場所	
③	ホタルの集う学び舎 ～かやぜ～	萱瀬の特色であるホタルを象徴に自然に囲まれた学校であることを伝える
④	実り豊かな学校	共通する「実り」という言葉に願いを込める ・子どもたちの成長 ・萱瀬の自然 ・米づくり ・浮流の継承
⑤	～心を紡ぐ～ グラデーションの学び舎	・子ども1人1人に寄り添う気持ち ・学校、川、山、地域の方々とのつながり
⑥	杜の香りとかやぜの歴史 に包まれた悠久の学舎	神木となり得る萱瀬スギ等の香りに包まれた環境で、これまでの萱瀬地区の長い歴史に包まれながら笑い声がこだまする平和な学校生活が末永く続く想いを校舎の魂とする
⑦	～山・川・人～ かやぜの杜 安らぎとぬくもりの学び舎	・田舎の小規模な学校(日本の原風景を残す地域の学校)をイメージしたい。 ・上段を自然・地域・人が一体化のイメージ - 下段を木材をふんだんに使用したイメージと捉え、二本立ててよくないか。
⑧	・例1、2に賛成 ・昔から「自然豊か」「おとなしい」「素直」「優しい」と言われてきた。 ・一方で「物足りない」「競争がない」「考えを伝える力が弱い」とも言われてきた。 ・これからの時代を強く生き抜く力を養う教育の在り方も方針やコンセプトに加えたい。	

3【施設、設備に係るアイデア等】について

NO	視点	施設・設備のアイデア等
1	安全性	・小中学生の昇降口を分ける。 ・児童生徒と給食搬入車両の動線を交差させない。
2		・防火シャッター、スプリンクラー、教室内インタホンの設置
3		・ロータリーの設置（車両での送迎が多い。私道で方向転換していることが多い） ・防犯カメラ、スマートロック
4		・バリアフリーの徹底、車椅子への対応
5		・隙のない正門、裏門、外周にし門以外からの出入りを防ぐ。 ・地域の特性上、正門は開放状態が望ましいと思うが、登下校時間以外は施錠し侵入経路を少なくする。）
6		・正門、裏門、外通路、駐車場への防犯カメラや人感センサーの設置 登下校時以外に人感センサーを作動させ、職員室モニターで確認可能に
7		・送迎の降車場所の特定と設置 防犯上の理由から車両での送迎が増加傾向。特別転入学が導入されればさらなる増加が予想される。横断歩道付近の降車は追い越し車両があるため特に危険であり、敷地から少々遠くなくても横断歩道から離れた場所に設置する。
8	快適性	・トイレは洋式のみで
9		・男子トイレの個室化と自動消灯化 ・児童生徒の発達段階に合わせたトイレと手洗い場の設置 ・音への配慮（中学校は集中型学習が多い、音楽室や技術家庭科室等の配置）
10		・温度調節と湿度調整ができる教室の空調施設 ・グラウンドに風通しがよく直射日光を避けられる場所の設置
11		・居心地のよい環境を（音 光 風 空調 配色 緑 木材）
12		・小・中学校の生活圏を分けつつ中央に交流エリアの設置（共有空間、大階段） ・中学生のプライバシー確保 （思春期を迎える中学生が落ち着いて過ごせる静かな居場所）
13		・図書室をオープンスペースに 読書としての場に限定せず、交流の場としての機能を持たせる
14	地域拠点	・地域の避難場所や活動施設として体育館の他に多目的スペースを ・防災拠点としての機能 （備蓄倉庫、自家発電設備、避難場所の間仕切り想定、住民スペース）
15		避難拠点の設備（スロープ、救急車両の進入経路）

16		経済的に有利な円形校舎にし、近隣にない外観として個性を出す。円形で「丸く収める、平和」をイメージさせる。円形校舎は増築ができないことがデメリットとされるが、今後児童生徒数の大幅な増加は見込めず問題ないとする。
17	地域拠点	・木造にこだわる必要は無い。(子どもたちはそもそも大自然の中で生活しており、木造校舎に関心は無い) ・基本鉄骨でアクセントで木材をうまく使い、耐震性と地域に溶け込むデザイン性を両立できればと思う。 ・「萱瀬スギ」をシンボルツリーとして展示もしくは使用できないか。
18	他	・30年前は全国最長の一輪車コースが話題になった。コースのリメイクもよいが、他校にない特色ある設備を考えたい。
19		・始業・終業時のチャイムの取扱い。ノーチャイム？
20		・小中学生が同一時間帯に別々に授業ができる運動場の広さ ・1Fプール、2F体育館の一体型で、運動場を広く
21		・小中学校教職員の意思疎通ができる同一の職員室
22		えのきや土俵の在り方（地域、学校の伝統の象徴であり地域の想いや思い出が詰まっている。これからどう扱うべきか。残す壊すの問題ではない）
23		更衣室の設置
24		黒木小合併の有無にかかわらず、太鼓ができる環境を

基本構想に盛り込む事項（案）

- 1 基本構想制定の目的
- 2 これまでの経緯
- 3 基本構想制定委員会の組織について
- 4 特色ある学校づくりにつながる方針（基本方針）について
 - (1) 基本方針
 - (2) 説明
- 5 こんな学校にしたい（キャッチフレーズ）について
 - (1) キャッチフレーズ
 - (2) 説明
- 6 施設・設備に係る要望等について

【安全性】

- (1) 児童生徒と車両の動線の分離
- (2) 防火・防災設備
- (3) 防犯対策
- (4) 降車スペース
- (5) バリアフリー

【他】

- (1) 特色ある設備
- (2) 運動場の広さ
- (3) えのき、土俵
- (4) 更衣室
- (5) ユニバーサルデザイン

【快適性】

- (1) トイレ設備
- (2) 交流スペース
- (3) バリアフリー
- (4) 空調・防音・配色等

【地域拠点】

- (1) 避難場所としての機能や設備
- (2) 地域活動の場
- (3) 木造校舎について
- (4) 地域のシンボル